

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農業費 項：農業振興費 目：主要農作物対策費

事業名 麦・大豆生産性向上対策推進事業費（国費分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内2864)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,541 千円 (前年度予算額：2,400 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,400	2,100	0	0	0	0	0	0	300
要求額	2,541	2,241	0	0	0	0	0	0	300
決定額	2,541	2,241	0	0	0	0	0	0	300

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

水田フル活用を推進するために必要な作物である麦・大豆は、実需から安定供給と品質向上を求められている一方で、単収が伸び悩む地域があるとともに、品質や年次変動が大きいと、需要に応じた生産拡大と収量・品質の高位安定化が必要となっている。

(2) 事業内容

○麦・大豆増産対策チームの設置

関係各課等との連携による、収量や品質等の生産性向上対策の方針検討

○麦・大豆の収量向上と高位安定生産対策

<麦>

- ・産地と実需が連携する岐阜県麦民間流通地方連絡協議会への参加
- ・耐病性や収量性が期待される新品種「タマイズミR（小麦）」、「カシマゴール（大麦）」、「ファイバースノウ」の大規模実証と、実需と連携した加工評価の実施
- ・単収が伸び悩む地域での栽培技術の検証

<大豆>

- ・麦後大豆栽培における栽培技術改善の実証（土づくりと施肥改善の検討、播種時期の前進化、等）
- ・品質・収量の安定化が期待できる新品種「フクユタカA-1」の実証

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・県内麦・大豆産地における需要を捉えた生産拡大と安定供給の実現のため、県負担は妥当である。
- ・国の持続的生産強化対策事業のうち、戦略作物生産拡大支援事業を活用（補助率；国費10/10）

(4) 類似事業の有無

- ・無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	50	講師謝金
旅費	338	業務旅費、費用弁償
需用費	758	消耗品費、燃料費
役務費	1,053	分析費用、通信費
使用料	342	会場使用料、バス使用料、実証ほ場借上げ料
その他	0	
合計	2,541	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」

(2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり

- ②水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開
 - ・麦、大豆、加工業務用野菜の生産推進

(2) 国の状況

「食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月31日閣議決定）

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

2. 農業の持続的な発展に関する施策

(6) 需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化

- ③ 米政策改革の着実な推進と水田における高収益作物等への転換

イ 麦・大豆

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・需要に応じた麦・大豆の品種導入、安定生産対策を実施し、令和7年度までに麦・大豆の生産量を「ぎふ農業・農村基本計画」に掲げる目標まで増加させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H28)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①麦の生産量 (t)	7,770	10,618	/	/	11,520	92%
②大豆の生産量 (t)	3,070	2,860	/	/	5,040	57%

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>◆麦の生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大麦品種「カシマゴール」の大規模実証と加工評価の実施（1ヶ所） ・収量・品質向上に向けた施肥体系の実証（15ヶ所） <p>⇒「カシマゴール」については収量性が高く、麦茶用途に適することを確認できた。</p> <p>◆大豆の生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな大豆品種の加工適性評価の実施（3品種） <p>⇒「サチユタカA1」「九州182号」「里のほほえみ」について、実需と連携して評価を実施した。</p>
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>米の消費量が減少する中、水田の有効利用を図るため、麦・大豆を転作作物として推進する必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>実需者のニーズを踏まえた品種の導入や品質向上技術の確立は、食料の安定供給や生産基盤の強化にも繋がり、本事業の有効性は高い。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>計画や進捗状況、取組成果について関係機関と検討を図るとともに、必要に応じて、生産者団体等と連携し、技術確立の効率化に努める。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主食用米の需要が減少する中で、水田のフル活用のためには、水田において需要がある麦・大豆の作付けを推進する必要がある。しかしながら、収量や品質の年次変動が激しく、需要に十分にこえることが出来ていない状況。 ・ 新たな品種や栽培技術をスムーズに取り込んで頂くため、生産者団体等と連携し、技術のPRや普及導入を進める必要がある。

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実需者から支持される麦・大豆の高位安定生産拡大と新技術の導入 ・ 大豆単収及び品質の年次変動を克服できる栽培技術の確立普及
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	